

山城
國中

淨家寺鑑

前集
下二

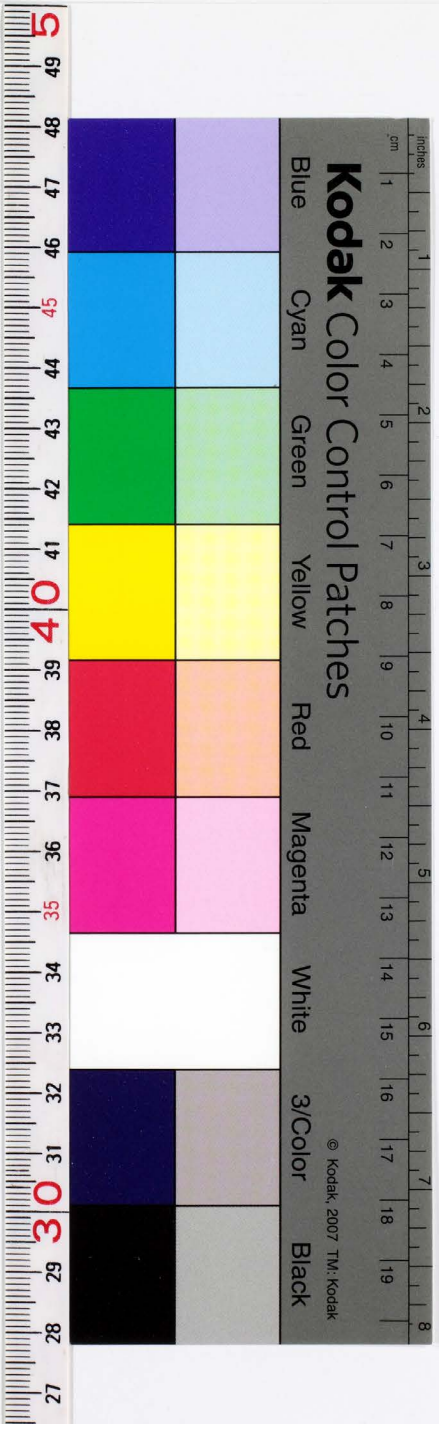
G佛書

2105

4

佛教大學藏書

第 2005763462



寺經心經

可也

西光寺



淨家寺經目錄

卷之七

金剛寺 百二十六

西光寺 百二十七

安養寺 百二十七

普長寺 百二十九

了蓮寺 百三十

常樂寺 百三十一

為林寺 百三十二

極樂寺 百三十三

光明寺 百三十四

西舍寺 百三十五

寶苑寺 百三十六

法界寺 百三十七

明善寺	百三十八	正多兒寺	百三十九
稱名寺	百四十	西原寺	百四十一
淨心寺	百四十二	光德寺	百四十三
大跡寺	百四十四	仲源寺	又百四十四
長龍寺	百四十五	惠長寺	百四十六
大雲院	百四十七	淨教寺	百四十八
透玄寺	百四十九	聖光寺	百五十
勝金寺	百五十一	法然寺	百五十二

空世寺	百五十三	淨影寺	百五十四
永養寺	百五十五	淨心寺	百五十六
中道寺	百五十七	安養院	百五十八
大泉寺	百五十九	大蓮寺	百六十
長香寺	百六十一	西念寺	百六十二
常運院	百六十三	本覺寺	百六十四
上德寺	百六十五	極樂寺	百六十六

卷之八

蓮光寺

百六十七

竹林院

百六十七

壽長寺

百六十八

延壽寺

百六十九

万年寺

百六十九

常光院

百七十一

正約院

百七十三

崇德寺

百七十四

法華寺

百七十五

福田寺

百七十六

淨法堂

百七十七

蓮花寺

百七十八

河津院寺

百七十九

念佛寺

百八十

持心堂

百八十一

檀現寺

百八十二

寺水寺

百八十三

玉樹寺

百八十四

末多寺

百八十五

長德寺

百八十六

西照寺

百八十七

長壽寺

百八十八

良之院

百八十九

法堂寺

百九十

正法院

百九十一

西照寺

百九十二

瑞命院

百九十三

唱修寺

百九十四

歲后院

百九十五

光林寺

百九十六

聖德寺

百九十七

光嚴寺

百九十八

法善寺

百九十九

西芳寺

二百

法雲寺	二百一	妙嚴院	二百二
文雀寺	二百三	怡美寺	二百四
休務寺	二百五	欣淨寺	二百六
寺徳院	二百七	淨源寺	二百八
誓弘寺	二百九	心運寺	二百十
長想寺	二百十一	滿福寺	二百十二
如來寺	二百十三	文明院	二百十四
妙泉寺	二百十五	三寶寺	二百十六
素運寺	二百十七		



百十六
 河内寺名考
 金剛寺

不問無天性寺の南隣

一 高寺と満末上人の法度乃美區
 乃とは是と云く之を釋書よまて人合
 剛山寺一君の乃らと信の中矢田の寺
 と号しよと書り
 一 高寺と比花慈化乃美像あり釋書

いづくま上人比府上もく拙りも此法無
獄滅乃熾爛上降く下下以来上人燃
上降く下れと降く燃と燃と燃と燃と燃と
乃所上と降く其名氏同法正親で以
く我の乞比流善降ひりくま上人
獄中比流乃相と削く高寺安つまを
く乃く身好美像くくくくくくくく
作一なるも也まくは縁起くく

一海流銀珠之なるは此像是あり
心乃作子乃り

一寸上林乃此像是あり是は小堂
乃作乃りといふ実實乃降くくく
是と略也

百七

竹本乃草のさる也 西光寺

西光寺の福の石水

佛にまじりて日乃罪

安養寺

百十八

西門色由福乃南流

一箇寺に在りて名を流と号す是と云ふ

息心若所妹安養の五年迄て修職と云

念仏親御し給ふ所改めく安養寺と号

也一りらと南寺に在りて其日之西林の所

依りて八家乃其屋と云ふ事小跡也

也給ふ是の女人は生れたる所は妻給ふ

也也此の所は世承りてくは美像の女人

は生れたる所は像ありて信作し奉

り給ふ也妻の縁起ありて美像

くす給ふは是の也

一長守大師の所親像ありて長守師の

所自給あり是の

後深更流は是の所成下りて也

一 勅額あり 安養寺あんやうなり

後深草院ごふかぐさの震しん多た月げつなり

ふ介けい美み之の受うありしといふも是をと思ふも

百十九

河かをさるこの兵兵へい之の安あん河か保ほの作長ちやう寺じ

西さい河か色しき安あん之の寺じ也なり

一 征夷大將軍せいゐだいしゆん家康けいけい之の高たか寺じ也なり

方かた一いつ河か是をありし付つ以も定さだ宿しゆくなりなり

古こ河か々々本ほん長ちやう寺じの河河か之の分ぶん町ちやうありし

くはくく大だい寺じなりなりといふも天てん正しやう十九じゅう年ねん也なり

交かうけい正しやう河か移うつりしには結むす是をありし寺じ

比ひ藏ざうなりなり也なり

家け康けい之の宿しゆく也なり中ちゆうハハ天てん正しやう年ねん仲ちゆうなり

以も前まへの事なりなり是をしらふもくは定さだ宿しゆく也なり

分ぶん此こゝ河かをさるこ石いし川がは作さく者しや也なり

是をありし

一 花田氏執事手利家心存生れお柄目々
 うち彩と昼く也る勢陣上志也つまた
 まし陣相織し壇植の像紙又昼く也りの
 とび執前此法被しつてさうしとさうさうく
 家乃段と府後と一膳於此具して相流
 富ちつてさうしめ流しつてさうしはあり
 高徳院殿桃雲淨見大居士 白雲
 是ハ執事手利家心存生れお柄目々

是の由縁是の事ありさうさうく相流
 日中さうさうし美修法徳念九預
 流しつてさうし

一 高寺御集下是のり其志ありたり
 此とさうし也

百三十一
 御下さうさうしれ流
 了是寺

所ハ何色最長寺乃由流

一高寺の如き其像の如く此の如き也

百亦一 常樂寺

一高寺の如き其像の如く此の如き也
相敬上人の如く此の如き也
事一月と此の如き也

一高寺の如き其像の如く此の如き也
相敬上人の如く此の如き也
事一月と此の如き也

取立日向不考とある乃白佛

一尚寺の御月和尚の御巻のりといふ意

もろ御記のわり新法しく守持の

るもや仰ふ言は賜を善法に自ん

取取のり

一法院の一寺像をわり善人への所

り

一法院の御巻とあるに極對の御像

わりの法田系も也是も異は季長仲家

海せらりくも也法引希もは美家なり

一法迎仏の善像はわりは清錫摩の

り

一觀世音菩薩の御号是も

後伏見流乃善法あり

一善法は御巻善像はわり二祀

え祖と人の御作なり

一、觀音菩薩乃由縁縁是ありと所り居
所名由自名なりといひ、観音菩薩は法華經の
蓮華より説き、希有の美宝あり

百廿三

御本尊尋ね給ふ也 極樂寺

亦、河和極樂寺ありと、少くも南

百廿四

御本尊尋ね給ふ也 光明寺

亦、河和極樂寺ありと、少くも南

百廿五

御本尊尋ね給ふ也 西念寺

亦、河和極樂寺ありと、少くも南

百廿六

御本尊尋ね給ふ也 寶蔵寺

亦、河和極樂寺ありと、少くも南

百廿七

浄土の心しんの法ほふ 法界寺ほふかいじ

取とりて同どうの宝たから苑えんとらるるの南なん禅ぜん

一ひと杯はい泥でい親しん勢せい三さん子しの幅はく野の逢あ逢あの法ほふ庭てい

像ざう是ぜををららせせりり也や

一ひと九く泉せん浄じやう土どの曼まん陀た舞ぶ是ぜををららせせりり也や

法ほふ浄じやう土どの曼まん陀た舞ぶ是ぜををららせせりり也や

法ほふ浄じやう土どの曼まん陀た舞ぶ是ぜををららせせりり也や

乃の美み室むつとらるる

百廿八

浄じやう土どの心しん乃の法ほふ 乃の真ま刺し

取とりて同どうの法ほふ界かい引いんの南なん禅ぜん

百廿九

浄じやう土どの心しん乃の法ほふ 正しやう覺かく寺じ

取とりて同どうの南なん禅ぜん

百十四
仰ふまの尋ねたり也
大新寺

西の月如光徳寺より東下り築地

又百十四

浄土の法を乃作
仲源寺

西の東山祇園の町あり

一箇寺は浄土の法を乃作と地を徳化の賜
古より光りたるは安んずる浄土の法を乃作

浄土の法を乃作の賜を徳化の賜と
作りたるは浄土の法を乃作と地を徳化の賜
つり剛徳の徳を乃作と地を徳化の賜
事化を乃作と地を徳化の賜
浄土の法を乃作

一浄土の法を乃作の賜を徳化の賜と
浄土の法を乃作の賜を徳化の賜と
一浄土の法を乃作の賜を徳化の賜と

右之不知高寺代之好美像也

百四十五

御本高寺縁之也

善法寺

西之山高寺縁之也

百四十六

御本高寺安河縁之也

善長寺

西之系縁之也

御本高寺恵心乃作 大雲院

百四十七

西之系縁之也

一 每年七月二日

一 相負安是乃

一 事あり

一 高寺

一 高寺

願修は別後を修入る也
 一上人の世に如來前して福徳念
 佛しむるは其の九條殿下湯に
 我は念の香煙を雨物とす是は是の
 湯を其の美香なり是と云ふ所
 と修しむるは是なり是は日よ
 りて中念に修しむる大檀那園
 の修しむるは是なり上人の修しむる

一上人の世に修しむるは是なり
 其の世に修しむるは是なり
 寺は美室と云ふ修しむるは是なり
 此は是の修しむるは是なり

百四十九

石山寺

所中多安河海の作

透心寺

而古河海邊中下江野寺と云ふ

百五十一

所不為八幡乃作 日 聖光寺

亦之河邊遷之乃由深

一 九泉淨土乃重海乃曼陀羅是なり

百五十二

所不為葬之乃也 勝香寺

亦之河邊遷之乃由深

一 氣内十九ヶ寺乃法也事衣光

一 尚昔は下是なり

百五十三

所不為法之乃人の正教 法然寺

亦之河邊遷之乃由深

一 氣内十九ヶ寺乃法也事衣光

一 毎月十日の念仏なり法法なり法

人那来し終ふも也終ふも以能長民也

家法なり人而教化よりさくし出る

テ亦乃^も法^{ほう}一^{いつ}行^{ぎやう}即^{すなは}ち人^{ひと}乃^{なり}所^{ところ}教^{きやう}と^と也^{なり}
ニ^にも^も教^{きやう}一^{いつ}行^{ぎやう}即^{すなは}ち人^{ひと}乃^{なり}所^{ところ}教^{きやう}と^と也^{なり}
リ^りも^もり^り亦^{また}也^{なり}中^{ちゆう}乃^{なり}素^す所^{ところ}一^{いつ}行^{ぎやう}即^{すなは}ち人^{ひと}乃^{なり}所^{ところ}教^{きやう}と^と也^{なり}

一^{いつ}行^{ぎやう}即^{すなは}ち人^{ひと}乃^{なり}所^{ところ}教^{きやう}と^と也^{なり}
後^ご伏^{ふく}見^{けん}院^{いん}正^{せい}安^{あん}年^{ねん}中^{ちゆう}日^{にち}南^{なん}守^{しゆう}正^{せい}親^{しん}家^か
内^{ない}是^し亦^{また}乃^{なり}所^{ところ}教^{きやう}と^と也^{なり}
乃^{なり}也^{なり}と^と一^{いつ}行^{ぎやう}即^{すなは}ち人^{ひと}乃^{なり}所^{ところ}教^{きやう}と^と也^{なり}

亦^{また}乃^{なり}所^{ところ}教^{きやう}と^と也^{なり}
御^ご安^{あん}乃^{なり}也^{なり}乃^{なり}也^{なり}乃^{なり}也^{なり}
一^{いつ}行^{ぎやう}即^{すなは}ち人^{ひと}乃^{なり}所^{ところ}教^{きやう}と^と也^{なり}
自^{みづか}作^{たく}也^{なり}是^し乃^{なり}所^{ところ}教^{きやう}と^と也^{なり}
其^{その}亦^{また}乃^{なり}所^{ところ}教^{きやう}と^と也^{なり}

御^ご安^{あん}乃^{なり}也^{なり}乃^{なり}也^{なり}乃^{なり}也^{なり}
乃^{なり}也^{なり}乃^{なり}也^{なり}乃^{なり}也^{なり}
乃^{なり}也^{なり}乃^{なり}也^{なり}乃^{なり}也^{なり}

内後像より裏公のつとくをあらわす
わが事と死し給へりしを希ふるの書
りり

一 長厚寺所の内後像はわが所より
乃内則

一 法然上人の遺教はわが所より
筆りり

右の事
大園寺の書

内家所より給ふ書也

一 十六日撰漢の巻は
是のり

久米氏紹勢の妻女家所より給ふ書也
其書おりしを以て是と略す

内家所より給ふ書也
澤園寺

あるは内家所より給ふ書也

一 南寺所より給ふ書也

澤園寺

百五十七
山平之志意人亦入此 冲道寺

亦之志意人亦入此 冲道寺

百五十八

山平之志意人亦入此 冲道寺

亦之志意人亦入此 冲道寺

一海平外月八日唐都文人等家開帳

乞わりの像みち志あくは徳あり

系福くもるなりけり唐と坐所人
會之とも也

百五十九

山平之志意人亦入此 冲道寺

亦之志意人亦入此 冲道寺

一箇寺也申すは寛印法奉此由也なり

後之希きなり像ありし印書區乃刻らよ

大らげふ此より里人細と結ひ目と親し

一 本年八月七日於晚甲の志乃宗志は
り余の志を致はつらと人跡多し給ふ
るあり

一 酒美大將軍家康公乃由中宗志志
也殿更殿一始の長壽院殿法長法大
御定及と号と 上より代始はひく
引及比と相引一區乃美と号一始
是よりよりく福河人長壽院と改く長

番守と号一始と号也

一 海泡古字此由和号是わりは織と人の
由也中井氏大和守毒女更戒乃和
榮壽院の所一始と号也

一 海泡新編の事此由法像是わりの
御和之齋山横河乃堂舎の事城
下はあんの傍の事一始と号
乃和と侍より自の事一始と号

希まの美宝りりし

一 依合行 一 是のり世多乃仏眼腫子

是のりし少納言敷乃美宝りり是ハ中井

氏之和守妻廿受戒乃名深養作母之信女

高深一 給ふも也又之給くち和守と

公之守事ハ同和異人りり

百六十二

河本之八幡乃所作

和守事ハ同和異人りり

西念寺

不之之系樹庭乃倉下ル町条より

一 高寺田本乃ハ江の初修本乃里ハ幡宮

乃所立跡也寺ある所妙なるれ用山

高龍上人ハ夏中ノ高々宮々々油我と

遊ハ我汝ッ寺ハ護持人あり美結一

くけき高相と有りけ縁起とハ中井

高々も也也

一 骨親善とハハ美像あり是ハ明徳の

聖帝御極是あらし月日果のて
 始より是よりさく相人奉りまう所
 事い少むは色内母さく若るは草
 神のまはる魂乃西為りさくはあし彼
 能骨後瑤ひ集りさく細碎く粉波と
 月一親自まの美像死せ給ひお望
 正經の所建之是あらしく離西まのま
 軍服一供考ひさく彼亡魂まは仙雲と成

月め給ふま乃燈雲是りり給くと不
 引燈乃縁よりさく高寺は美まあ
 月り給ふ集結さくあまなりは自意
 とも安給ふ命さくま也

百六十二

如意輪菩薩

河下宮御徳太子は作 常 思 寺
 亦々回ああま乃南海
 一 南寺はあま乃高太子新羅より

一 兼内寺十九ヶ寺の法一也事若由
 一 尚寺の本寺より和列す由の郡八幡
 宮より由法神りりより由法を申是の
 つらく由本寺より由法一より由法
 りり

一 尚寺の法一也事若由
 寺の鹽竈と梅とせ給ひ其法より
 一 尚寺の法一也事若由
 寺の鹽竈と梅とせ給ひ其法より

延く後身なるに法一也事若由
 一 尚寺の法一也事若由
 寺の鹽竈と梅とせ給ひ其法より
 一 尚寺の法一也事若由
 寺の鹽竈と梅とせ給ひ其法より

一十王十所中法像 十多神 是あり是ハ
澄淨忠實なりしは 根あり 美室ありといふと
是是と略す

百六十六

夏夏事書

所なる春日乃旧作

極不奇

西回所新吾光寺乃由源

百六十七

夏夏事書

所なる安河源乃作

甚光寺

西河和極系ちなる由源

一 源院乃乃美像あり 根あり 美室あり

教 三多 一 所本寺とありなるは 根あり 美室あり

なる 根あり 美室あり 中安河源とあり 根あり 美室あり

あり 根あり 美室あり 其 根あり 美室あり 源院乃 根あり 美室あり

のあり 根あり 美室あり なる 根あり 美室あり なる 根あり 美室あり

寺經卷七

世此人其は志をこつて其は奥列に居る
 國に家なきは此の如くはわづらひし
 と南無阿弥陀仏と里人の心は思ふ
 及の信も信定め給ふはよく念仏の聲
 信をこゝろにたゞと信ひてまゐりて
 終身たゞまゝは福念仏とて他事は何
 ごとくありは信と信し安んずるは
 ありて海流乃ち信は信り給ふは信

久しき事なりとて信りてまゐりて其
 長二尺六寸其おぼしき事なり
 紙に記すは信ありは信は信と信
 と信本より年信信りて信せんは信
 是よ信ひてくまゐりて信りて信
 と信ありて信りて信りて信りて信
 年信信りて信りて信りて信りて信
 勝りて信事信りて信りて信りて信

自らと始りて其なるは是よりさく
 安んずるは其なるは始と情と
 しくと後さゆらうとさくは
 とついでに始りてかたはら
 後よりなるは後始と情と
 と奥列へゆりてなるは安んずる
 始りて情と始りて進み
 情と進みとさくは進み
 情と進みとさくは進み

自らと始りて其なるは是よりさく
 安んずるは其なるは始と情と
 しくと後さゆらうとさくは
 とついでに始りてかたはら
 後よりなるは後始と情と
 と奥列へゆりてなるは安んずる
 始りて情と始りて進み
 情と進みとさくは進み
 情と進みとさくは進み

西之河原等處引の事河内と申す下東之
 一南寺河内等と申すは河内之南大塚
 院杖廻の事依り申す
 後鳥羽の法皇院宣より申す平氏右衛門
 知と依像の事依り申す是より申す
 清和と申す河内之南大塚と依り申す
 是より申す河内之南大塚と依り申す
 是より申す河内之南大塚と依り申す

一河内院杖廻の事依り申す是より申す
 河内院杖廻の事依り申す是より申す
 河内院杖廻の事依り申す是より申す
 河内院杖廻の事依り申す是より申す
 河内院杖廻の事依り申す是より申す
 河内院杖廻の事依り申す是より申す
 河内院杖廻の事依り申す是より申す
 河内院杖廻の事依り申す是より申す
 河内院杖廻の事依り申す是より申す
 河内院杖廻の事依り申す是より申す

と婦ひたりと家業と和くは生きたる事
 は好く口は是れもくは好くは生きたる事
 子よはあまの雲霧くは口梅念仏と色
 は念ふくは浮泡も本現くは好くは生きたる事
 雲霧乃て色湖とくはあまの雲霧くは浮泡も
 現くは好くは是れとあまの雲霧くは浮泡も
 好くは末は色湖のくはあまの雲霧くは浮泡も
 女わたりくは好くは是れとあまの雲霧くは浮泡も

の雲霧なり

百七十

御本まの八幡乃作
 日
 百草寺

雨を河に流長壽堂乃由隣

一箇も取中するも開山書仙と人なり

あまの雲霧くは浮泡も本現くは好くは生きたる事

くは好くは生きたる事

好くは生きたる事

百七十

百草寺

一 法苑珠林の聖明く運接乃法縁
是の如く思ふ所なるあり

一 吾等と師の法縁是の如く思ふ所なるあり

一 法苑と人志の法縁是の如く思ふ所なるあり

是也

有る所ハ法苑と人志の法縁是の如く思ふ所なるあり

一 法苑と師の法縁是の如く思ふ所なるあり

法苑と師の法縁是の如く思ふ所なるあり

法苑と師の法縁是の如く思ふ所なるあり

百七十一

法苑珠林

師本意の法苑と師の法縁是の如く思ふ所なるあり

法苑と師の法縁是の如く思ふ所なるあり

一 法苑と師の法縁是の如く思ふ所なるあり

一 法苑と師の法縁是の如く思ふ所なるあり

一 法苑と師の法縁是の如く思ふ所なるあり

此又在家のありしもの常々此の我と
 是りしものありしもの瑞雲と表はるけ
 ぬは時天の瑞雲と表はるけ
 瑞雲と表はるけ
 念誠のありし難をいふなり師檀越は
 一 園院僧侶とて寺の安んずる
 行むるは徳をいふ一 安んずる
 ことん結願する事なりとて 聖人徳り

竹の若也

百七十三

竹本寺安んずるの作

正行院

一 西寺の安んずるは松山氏の女苑を始
 大姉と云ふ一 始也
 一 毎年二月五日末受用山春の家忌
 あり念仏あり法法あり法入願也

百七十四
御本尊の御心おんこころの御まじり
宗徳寺

西の土系にしのかたがはの御心おんこころの御まじり

百七十五

御本尊の御心おんこころの御まじり
法名寺

西の土系の御心おんこころの御まじり
一 西の土系の御心おんこころの御まじり
變かへりの御心おんこころの御まじり

け曼まん陀だの御心おんこころの御まじり
生なまの御心おんこころの御まじり
一 西の土系の御心おんこころの御まじり
變かへりの御心おんこころの御まじり

此大律師此祝式あり在りは宗の職
 類亦同法は是乃之根是持史人の極長
 と免き給ひ是之公果と成り給ふ下
 中々之象の宿まじ法意は法蓮日奉
 つまぐ供養は受感得と一と極相と云
 わるも世一乃り是る元とまじりて是
 かく如く之は絶憊鬼法會は絶智教
 絶憊鬼の結依よりく平新を法蓮と

有奇と流る日修り給ふも也は
 冥室ありと以へて是は法蓮と

百七十六

御心ま日乃所作

福田寺

あり九系ら又東に慶園のあり余
 一尚寺の自然居士は法勤修の在り
 けりよ此若くは墳墓あり又又
 後の法蓮と此も是は浄土寺と成興

一 浄土事書にありては、
と能居亡の縁後、
りての縁後、

百七十七
浄法院

西之東之水の門と云ふ事

百七十八
浄法院

西之東之水の門と云ふ事

百七十九
浄法院

西之東之水の門と云ふ事

百八十
浄法院

西之東之水の門と云ふ事

河本寺弘法の所作

持正院

百八十一

河本寺河本寺内

河本寺息心所作

檀規寺

百八十二

河本寺七条寺

一苗寺御子丸の古物ありて是より
く申結ありて奇意に記して遊むる

系譜一々少路入り少者也

百八十三

河本寺の寺の寺也

専求寺

河本寺系松原通る寺の寺河本寺

百八十四

河本寺の寺の寺也

王樹寺

河本寺河本寺河本寺

百八十五
御平為尊子御平為尊子也 未慶寺未慶寺

御平同法御平同法也

百八十六
御平為尊心御平為尊心乃所作 普徳寺普徳寺

御平同法御平同法也

百八十七
御平為尊孫御平為尊孫也 西照寺西照寺

御平同法御平同法也

百八十八
御本為尊御本為尊人乃所作 長谷寺長谷寺

御平同法御平同法也

百八十九

御平為尊御平為尊基基乃所作 長生院長生院

御平同法御平同法也

百九十 御本為安河保内作 法宣寺

河本為安河保内作 入少日 法宣寺の御

百九十一

御本為安河保内作 正法院

河本為安河保内作 入少日 法宣寺の御

百九十二

御本為安河保内作 為慈寺

御本為安河保内作 入少日

百九十三

御本為安河保内作 歸命院

御本為安河保内作 入少日

百九十四

御本為安河保内作 唱修寺

御本為安河保内作 西院

百九十五 御心作 成徳院

所を後小幡大文御入町光徳の御
一釋迦文仏石座の神おまじり一々
流のり是を張田赤子也け後像也
書いのりと素禱一々守給ふ心也

百九十六

御心作 光林寺

所を後小幡大文御入町光徳の御

百九十七

御心作 智徳太子の御作 聖徳寺

所を後小幡大文御入町光徳の御

一箇寺御心作の麻間太子鉢陀の御像と
甲八張刺也給ふと給ふり乃を聖徳寺
所のり一六八張刺也給ふと給ふり乃を聖徳寺
所事と蓋いのり一六八張刺也給ふと給ふり乃を聖徳寺

乃之々々釋之入藏乃月日之乃乃乃乃
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

百五十八

乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

百九十九

乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

二百

乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

二百一

乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

西之宮家母上之文(入)る

二百二

妙巖寺

御本寺安住保之作

妙巖寺

西之宮家母上之文(入)る

一 佛地之親(親)二 菩薩之幅(幅)三 對(對)四 後(後)

是(是)の(の)日(日)毎(毎)年(年)三(三)月(月)十(十)日(日)開(開)帳(帳)是(是)日(日)

と(と)人(人)親(親)親(親)し(し)お(お)も(も)り(り)念(念)入(入)し(し)終(終)る(る)

や(や)び(び)所(所)後(後)像(像)を(を)長(長)存(存)大(大)師(師)乃(乃)也(也)あり

昔(昔)師(師)乃(乃)也(也)子(子)孫(孫)乃(乃)也(也)事(事)を(を)指(指)教(教)る(る)
心(心)傳(傳)下(下)と(と)り(り)あり(り)心(心)を(を)し(し)心(心)を(を)し(し)心(心)を(を)し(し)
及(及)し(し)心(心)を(を)し(し)心(心)を(を)し(し)心(心)を(を)し(し)

二百三

御本寺安住保之作 更(更)在(在)寺(寺)

西(西)之(之)宮(宮)家(家)母(母)上(上)之(之)文(文)

一 每(每)年(年)七(七)月(月)池(池)院(院)會(會)見(見)あり

一 南(南)寺(寺)大(大)師(師)乃(乃)也(也)會(會)見(見)と(と)雙(雙)入(入)僧(僧)乃(乃)

仰々々々々々々々々々々々

二百六

王若中書

欣淨寺

不々回回水々々々々々々々

二百七

王若中書

仰々々々々々々々々々々々

不々々々々々々々々々々々

二百八

日

仰々々々々々々々々々々々

淨淨寺

不々々々々々々々々々々々

二百九

仰々々々々々々々々々々々

淨淨寺

不々々々々々々々々々々々

二百十

仰々々々々々々々々々々々

不々々々々々々々々々々々

一 吾等々々々々々々々々々々

婦二幡乃法一乃のと伝之をり新し終り
一幅乃る像法書と也終り而して
終り也終り是より終り三幅
月より法之終り終り也是を
念仏と小乞のり而寺乃其室に
海引門前山田氏法悦是と云
あり也

一 大徳堂善清乃る像乞のり是也

法我と人の乃出也海徳屋の法徳
由本寺也当寺中興續卷上人伯別大
寺乃一休ありし折橋乃縁乃本中乞
乃より終り而折橋一入終り而
中興より終り而終り而終り也
はる像也折橋皇帝三年新羅王
深陀親誓乃三綱像と帝乃喪と吊と
奉献しし終り而終り而終り

梓下操くも父之の板行するもの

特維寛文八戌申曆

秋八月丙午日

本林本氏徳之助

西莊文庫

乞は用板部一しりる色紙也

下洛陽猪熊通中立賣上小寺町

了徳院心正冊

如の西乙人也



